



報道の自由

日本は中東諸国との関係、有志連合への第一歩とバンドラの箱を開けた。

イスラム教の国々と戦争、紛争などトラブルに介入しない平和な国、日本というイメージが一気に崩れ去った大きな一歩。

そして、前代未聞の人質事件を経て、自己責任論が再浮上し、渡航の自粛を求めても現地に赴くジャーナリストに強制力を行使した方が良いのではないかとの論議が持ち上がった。

いきなり旅券返納命令が出された！

新聞各社は、日本政府として渡航の自粛を勧告する事はできるが、憲法によって移動、渡航の自由保証されているため強制力を持つのは難しい、もしくは「不可能」との記述が多かった。

日本だけでなく世界中が注目する人質事件が起きて、一年以内に、表立ってではなく裏では危険地域に渡航するジャーナリストに対して締め付けがあるだろうとは予想していた、が、いきなり旅券返納命令が出された。

我が家ではちょうど鍋パーティーの4次会くらいの頃、パーティーに初参加のKさんの携帯に速報で入って来た。いつか訪れるとは思っていたが、こんなに早くその日がくるとは。「旅券返納命令」が出された。しかも、初めて返納命令が出されたのは杉本祐一さん。かれこれ10年以上前だが、開戦直前のイラクで一緒だったジャーナリスト。命令に従わない場合は、旅券法では5年の懲役もしくは300万円以下の罰金。個人の生命、財産を守る為とはいえ、ちょっと怖い。

外務省幹部は「イスラム国の支配地域を目指す渡航者の出国禁止措置を検討すべきだ」との考えをしめしているらしいと情報が入った。僕自身は、山本美香さんが亡くなり、後藤健二さんが亡くなった今、危険を冒してまでシリアに渡航しようとは思わない。(結局、シリアの前線取材した)取材に赴いたとしても今の日本では発表媒体がなく、間違いなく大赤字になってしまう。

しかし、怖いのは僕がトルコやヨルダンの友人に会う為にトルコやヨルダンに渡航する機会が出来た時、僕がISの支配地域に入る可能性があるから、渡航の自粛を、そして旅券の返納命令など出されたらたまったものじゃない。

今回、杉本さんは外務省や警察の説得を受け入れず渡航の意志を貫いたため、返納命令となったが、憲法の中で保証された「渡航の自由」の権利に国が乗り出して来た今、拡大解釈でフリージャーナリストが旅行にも行けなくなったら、本当困る。

もっと言えば、危険地帯に旅行やイスラム国での戦闘目的で渡航する人を日本政府として自粛を求めたり、旅券返納命令が出されても仕方ないかもしれないが、報道という仕事の為に現地に赴くジャーナリストにも適用されたら、大手マスコミ、フリーともに報道の義務にどう応えればよいのか。

アメリカは自国のジャーナリストが殺害されてもジャーナリストが現地に入り取材を続けている。イギリスも然り。



声を上げる人が増えれば、日本を変えられると信じています



日本は外交だけでなく、報道の世界でも事なかれ主義を貫く国となるのか。

木村太郎氏はテレビ番組で「外務省ごときが憲法に記述された権利を阻害するなどをもっての他、ジャーナリストが現地に行かなければ、人々の知る権利に伝える事ができない。」と強く発言している。

国や権力と全く違った次元で報道することが大切なのだが、それができなくなったとき、社会がどうなるか。

第二次世界大戦当時を振り返れば明白だ！

21世紀、日本だけでなく世界がいくつものパンドラの箱を開け、情報が秘匿される混迷の時代に突入しつつある。そんな時ほど、報道は重要だと思うのだが。そして時は流れ、恐れていた通り、僕自身がパスポートの更新に半年もの時間を必要とし、外務省の勧告に従わなければ旅券を発行しないと脅されることになり、危険地域には渡航しないと約束して旅券を発行してもらった。

以降、海外に渡航する度に日本の空港で止められ別室に連れて行かれ、どの国へ行くのか、どのくらいの期間行くのか、執拗に質問されるようになってしまった。人質事件が起き、日本人ジャーナリストが殺害された頃、それでも報道は必要だと論じていた人は2024年になり皆無となってしまった。

当然、危険地帯であるパレスチナのガザには日本人ジャーナリストは誰も入っていない、入ろうともしていない。当然のように日本政府という権力に屈した日本の大手メディアは国民からの信頼を失い、SNSなどのフェイクニュースに日本人が踊らされてしまう世の中を作り出してしまった。

国民の「知る権利」、メディアの「伝える義務」を怠った国がどうなっていくか、歴史を見れば明らかな通り民主主義を標榜した独裁国家となっていく。日本だけでなくアメリカもメディアが権力に屈し初めている。その先に待つのは自由にものが言えない暗黒社会。世の中を変えるのは圧倒的な権力ではなく、一人一人の声（意見）その声を上げるために情報が必要。

TRRは久保田はどれだけ日本政府に嫌われようとも、情報を発信し続けていきます。声を上げる人が増えれば、日本を変えられると信じています。民主主義ですから。僕1人ではできないこと、仲間がいればできると思っています。2025年も皆さんの力をお貸しください。

講演会情報

2024年2月1日（土）

【講演会】14:00～15:30

【質疑応答&交流会】15:30～16:45

【定員】40名

【場所】PlanT 日野市多摩平の森産業連携センター

東京都日野市多摩平2-5-1



編集
後記

走り続けた半年間

12月1日に開催した福岡市での講演会で今年6回目。

当日は福岡国際マラソンと重なり、道路が通行止めとなる区間があり、参加者の方も会場までの交通手段にてんやわんや。前回の台風といい、いろんなことが起きる福岡開催です。（笑）

TRRの活動として走り続けた半年間、思うように行かないことの方が多かった、、、それでも、参加してくれた皆様の感想を聞くたびに、「よし次も頑張ろう！」という気持ちになります。戦争や世界平和のことに興味を持っていなかった僕が興味を持ったのは、久保田さんとの出会いのおかげ。来年は、開催地を広げます。今後とも皆様のご支援よろしく願いいたします

The Real Report 坂田兼一

The
Real
Report

発行元
問い合わせ先
発行責任者

合同会社G&G Marketing TRRサポートチーム
support@giveandgiven-marketing.com
坂田 兼一